

認知症をジブンゴトとして考える地域を目指して ～多様なつながり・学びを通し、認知症になっても楽しめる地域づくり～

尾形 京子 ● 飯岡・永井地域包括支援センター 第二層生活支援コーディネーター 兼 認知症地域推進員



ドリームシードプロジェクトの様子

1. 背景と目的

当該活動地区（飯岡地区・永井地区）は盛岡市の南西部に位置し、高齢化率27.5%。当地域包括支援センター（以下、包括）は、認知症サポーター養成講座を開催している。その中で地域・学校等で受講する機会が多くあるにもかかわらず、マイナスイメージや実際に認知症当事者に触れる機会が少ないため「正しく理解する」ことが浸透しておらず、認知症になると地域で孤立する傾向にある。

講座による一方向の座学だけでなく、実体験や認知症を「ジブンゴト」として常に探求し続けることが重要と考え、当包括では2019年からSoRa Stars株式会社（SoRaCafeと学習塾SoRaを運営）と連携し活動を展開してきた。その結果、認知症当事者が活躍できる“学生とつくる「注文をまちがえるカフェ」”や地域の高齢者と学生が交流する場を生んでいる。加えて、地域の有志の会が注文をまちがえるカフェで着用するエプロンを作成する等、学生が中心となることで地域の大人たちの関心が高まり、支援の輪が広がっている。

また、講座で『認知症を正しく伝える』をテーマに普及啓発してきたが、専門職以外の言葉や対応からも気づかされることが多く

あった。以上のことから、専門職から地域住民、未来を担う子どもたちまで、認知症を「ジブンゴト」として考え、みんなで共に支え合える地域共生社会を目指していきたい。

2. 取り組みの方法

2019年から取り組んできた活動を中心に、以下4点を拡大展開していく。

- ① **ドリームシードプロジェクト**：SoRaCafeを活動拠点とし、学習塾に通う学生を中心に“認知症講座”“学生とつくる「注文をまちがえるカフェ」”“高齢者×学生の交流会”の3つをパッケージとして展開する。
- ② **教材づくり**：キャラバンメイトや地域住民を中心に、認知症が「ジブンゴト」として考えられる教材を完成させ活用していく。
- ③ **見守りマップ**：認知症の方の個別事例を地域で見守り支え合う一つの手段として、支援が可視化できる見守りマップを作成する。
- ④ **普及啓発**：誰でもアクセスできるホームページ等を作成し活動内容を紹介していく予定。その中で認知症当事者は、情報収集や当事者同士のつながりや社会参加の場への入口とする。家族や専門職、全ての人も情報共有したり、お互い支え合えること等ができるものを目指していく。

3. 期待される成果

認知症の方の支援を通じ、どのような地域ならこれからも一緒に暮らしていけるのか、一人ひとりが「ジブンゴト」として地域を考え、専門職や専門職以外でも、世代や心身の状態を問わず一緒に活動できるこそが、地域共生社会の実現につながると考える。